



市議 中村優子

http://
ynakamura.kgnet.gr.jp/

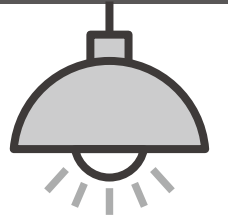


市議 河崎民子

http://
tkawasaki.kgnet.gr.jp/

電気の地産地消をすすめよう！

原発に依存しない社会をつくるためには、再生可能エネルギーを急速に拡大し、省エネや節電を更にすすめなくてはなりません。必要な電気は、できる限り地域内で発電して地域内で消費する「地産地消」の考え方も必要です。



大和市議 中村優子

原発事故の前、多くの市民は、便利に使っている電気がどこでどのように発電されているのか、ほとんど無関心でした。原発が決して安全ではないことを知りましたが、火力発電の増加などの理由で、手の届かないところで電気料金が高くなることも不本意です。地域の特性を活かして、さまざまな発電の仕組みや省エネを実践していくときです。創電と省エネの取り組みから、小さくても確かな地域経済の循環が生まれます。

学校や施設に太陽光パネルを

大和市は住宅の太陽光発電システムの設置に補助金を出しています。3月までに341件設置されました。また、災害時に指定避難所になる小中学校に、国の補助金で太陽光発電の設置を進めています。他の公共施設にも太陽光発電を計画的に導入すべきです。来年度から着工す

る「大和駅東側第4地区公益施設」は、将来にわたって長く使用する施設であることから、可能な限り最大の太陽光発電システムを導入すべきではないでしょうか。県が行っている「屋根貸し」も1つの方法です。

浄化センターを活用した発電

電気製品のなかでも冷蔵庫は、24時間365日動いています。知人が10年以上前の冷蔵庫を買い替えたところ、前年同月とくらべて電気代にして2〜3千円減ったとのことです。「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」によれば、技術革新により、冷蔵庫の消費電力は約1/2になっっているそうです。

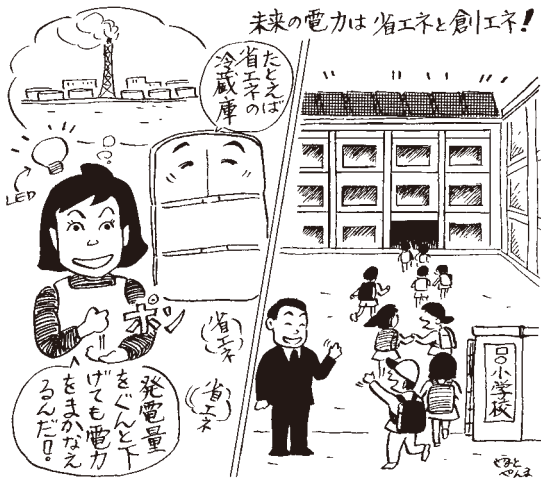


川井浄水場のパンフレット

大和市でも、北部と中部の両浄化センターを活用して、沈殿池に太陽光パネルを設置すれば、広い場所が確保できます。また、放流する排水を利用して、小水力発電も工夫次第で可能と思われる。

家庭の電気製品を省エネ型に買い替える、あるいは電気を使わないものに切り替える、その分だけ電力が削減でき、発電するのと同じ効果が得られます。これらが大和市内の多くの世帯が実行すれば、街の中に発電所ができたと同じことになります。

厚木基地への配備や飛来の可能性があるとすれば、それは到底容認できません。しかし、厚木基地に飛来するかどうかだけの問題ではありません。沖縄や普天間の怒りを基地のまちが共有し一致団結しなければ、大和市が市是とする厚木基地の返還が実現することはないのでないでしょうか。



「藤野電力」の活動

「藤野電力」は、相模原市旧藤野町地区で、東日本大震災直後にできた市民の地域活動です。自分たちが使うエネルギーは電力会社に頼るのではなく、自給自足できるようになりたいと考えたそうです。エネルギー地産地消の実践です。

まず、省エネを前提に、太陽光発電や小水力発電により、自律的に運用できるエネルギーを作り出したいと活動中です。主な活動として①小規模のソーラーシステム組み立てワークショップ②藤野地域でのソーラーシステムの施工などを実施しています。

現在、拠点としている元小学校の全電源をソーラーシステムで賄いたいと準備中です。藤野地域でソーラーシステムを導入した施主さんは、「好きなテレビは自分のところで作った電気で見たい」と設置を決心したとのことでした。



「藤野電力」の拠点(元小学校)

神奈川県ネットワークは決議すべきと討論しましたが、陳情書は僅差で否決となりました。現在の大和市議会はこのような現状にあります。非常に残念なことです。

オスプレイ配備と大和市議会の対応

河崎民子

米軍の垂直離着陸輸送機オスプレイは、沖縄県と県民の抗議の声を無視する形で、10月はじめに普天間飛行場に配備されました。

オスプレイは、開発段階から人命に係る事故を何度も起こしてきた機種です。また、普天間基地は、厚木基地と同じく人口密集地にあり、墜落への不安と配備への怒りは、想像にたくありません。

大和市議会に対して、配備反対の決議をするよう陳情書が提出されました。座間市議会は、すでに6月の議会で、全会派が賛成して配備反対の決議をあげています。

厚木基地への配備や飛来の可能性があるとすれば、それは到底容認できません。しかし、厚木基地に飛来するかどうかだけの問題ではありません。沖縄や普天間の怒りを基地のまちが共有し一致団結しなければ、大和市が市是とする厚木基地の返還が実現することはないのでないでしょうか。

